

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年		
410038	X-32-B-3-410038	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×		
授業科目				【3年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×		
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×		
				【1~3年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	3年		
				【1~3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×		
研究ゼミナール1				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×		
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		

#### ゼミテーマ・タイトル

##### 経営における人と組織

##### 内容

本ゼミナールでは、人と組織に関する経営課題、社会課題に関連したテーマを各自が設定し、調査・分析の実施、結果の考察などの一連の研究プロジェクトを遂行できるようになりますことを目指します。

研究対象分野は経営学における、人間の行動や、経営組織のマネジメントについての研究です。この分野における研究の例としては、ワークライフバランスの実現や、多様な人材の活躍推進およびキャリア形成支援、職場定着支援、ストレス、動機づけ、リーダーシップなどが挙げられます。人と組織に関する研究では、その研究が現在の企業経営や社会の課題解決にどう役立つかが重視されます。このゼミナールでは、経営や社会の諸課題とのつながりを意識しながら、各自が関心を持つテーマを設定し、研究します。

主要な進め方は以下になります。

①社会科学における基本的な研究の方法論について学ぶ。特に統計の基本的な使い方を学ぶ。

②人と組織に関する経営課題、社会課題について理解を深める。

③研究テーマを発表し、意見交換する。

④調査、分析の方法について意見交換する。

⑤結果について発表し、意見交換を行う。

⑥研究の進捗を適宜レポートにまとめて提出する。

統計の使い方については、別途テキストを指定します。

このほかに、経営課題や社会課題を分析した論文や書籍を題材として、文献要約・発表などを行なうことがあります。

【授業前・後の学習】

- ・関心のある経営問題等について白書や各種報告書、政府統計などを用いて調べ、研究テーマを構想する。

- ・研究の方法論について復習し、理解を深める。

- ・自分が考えたテーマの研究に必要な調査を行う（アンケート調査、政府統計などの公開資料による調査など、テーマに適した調査を行う）。

- ・卒業論文を執筆する。

- ・各回の予習復習に4時間必要となる。

##### 使用予定テキスト

##### 別途指定します

##### ゼミの進め方

方法論の学習、卒業研究のテーマ設定、卒業研究の進捗に応じた発表、意見交換、レポート提出などを行います。

##### 成績評価基準

クラスへの参加、ディスカッションへの貢献（40%）、発表（30%）、レポート（30%）

##### ゼミ選択上のアドバイス

主に指導可能な研究の方法は以下の通りです。

1) 公開資料にもとづく調査、分析（白書、有価証券報告書、政府統計や各種報告書などを用いた分析）

2) アンケート調査（心理、社会心理、組織心理などに関連する内容を調査し、統計解析する）

実務経験のある 教員による授業 科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表 等）の実施
×		○

##### その他

授業調整期間内に最終回の授業（発表）を行う予定です。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年							
410038	X-32-B-3-410038			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	× × × 専門 × × ×	× × × 必修 × × ×	× × × 3年 × × ×							
授業科目	担当教員	2	前期											
研究ゼミナール 1	小宮山 智志													
ゼミテーマ・タイトル														
多様な価値観に触れることで、新しいアイディアを創出し、集団で問題解決することを、学びます。														
内容														
人々の行動や考え方を“人ととの関係（社会）”に着目して“研究”することを目的とします。また社会でもっとも求められている「集団で目標を達成する能力」をお互いに協力して高めます。														
「学校」が既存の情報、知識を覚えるところであるのに対し、「大学」とは、新しい情報・知識を創造する（=研究する）能力を身につけるところです。人々について新しい情報を創りだすには、他者の視点を取り入れる必要があります。社会で役立つ卒業研究を行うために、そして卒業後、活躍するためにゼミの仲間や、さまざまな人々と協力することを学びます。研究例を一つ紹介します。														
研究例：ある食品メーカーの製品では、アレルギー表示がパッケージの前面に「アイコン」で表示されています。このアイコンは、単にアレルギーを持っている方だけでなく、消費者一般に製品の安全・安心感を伝えることができ、購買を促進していることを明らかにしてくれました。紅翔祭で一般の方に2種類のパッケージを実際に見てもらいたい調査しました（彼はこのメーカーに就職しました）。														
*他にも小宮山のホームページ ( <a href="http://www.nu.ac.jp/~komiyama/">http://www.nu.ac.jp/~komiyama/</a> ) に研究例が紹介されています。														
研究内容														
グループ活動を通して、調査・実験を行います。また研究室のメンバーで協力して実際に地域に役立つ活動を行なうこともあります。集まったメンバーで相談し、いままでは以下のような活動を行いました（複数年実施したものもあります）。卒業研究1~4いずれにおいても、グループワークを行い、お互いの意見を参考にしながら進めます。また文章執筆になれるために簡単なゲームをします。														
・先進的な地域をSNSで発信：全国に先駆け、地域で農業法人化、農家民泊、6次化、農産物のブランド化などを始めていた地域を調査し、活動の発信・販売促進のお手伝いをしました。また地域の小学生とも協力して、継続して発信していく仕組みも考えました。														
・内野町おこしのための「1日限定の喫茶店」を開店：地域の食材を使い内野町をアピールすること、そして内野町に若者を呼び込むことを目指しました。														
・地酒試飲会：地域の地酒を試飲してもらい、評価をもらい、そのような人びとが、どの種類のお酒を好むか調査しました。														
・地域の食材を使った新商品の開発：地域の祭りで、自分たちがアレンジした、地域の伝統食を販売しました。														
・パブリックビューイングの開催：2014年ワールドカップのパブリックビューイングを新潟国際情報大学で開催しました。地域の方にも大勢ご参加いただきました。														
・みずき野飲食店マップ作成：みずき野の飲食店にご協力頂き、飲食店マップを作成しました。														
・ペーパークラフト作成：オリジナルなペーパークラフトを作成し、地域の祭りで販売しました。どのようなデザインのものが好まれるか、調査しました。														
使用予定テキスト														
チャールズ・A・レイブ、ジェームズ・G・マーチ（佐藤嘉倫[ほか]訳）『社会科学のためのモデル入門』（ハーベスト社 1991年）の第1~3章 世界思想社編集部『大学生 学びのハンドブック[4訂版]』（社会思想社 2018年）														
ゼミの進め方														
活動内容はグループワークで相談しながら決定します。また活動内容を口頭発表する準備をします。発表練習をとおして、プレゼンテーション学びます。発表内容をレポートにまとめてことで、レポートの書き方を学びます。また全体をとおして、研究するとは何かを学びます。														
*新型コロナウイルス感染拡大防止による授業開始遅延のため1回分のゼミナールを学外活動のレポートによって補講とします。														
【事前・事後学習】調査・実験などの課題（15時間相当）を行なってください。														
成績評価基準														
各回のグループワークでの活躍（50%）と、レポートで評価します（50%）。グループワークでアイディアを出すことはとても重要です。それと同時に、各自でアイディアを文章にまとめる力も養います。どちらもイーブン（50%ずつ）で評価します。グループワークを通して、フィードバックします。														
ゼミ選択上のアドバイス														
学習到達目標は以下の通りです。														
1. 自分の研究が社会にどのような貢献・影響を及ぼすか考察してください。 2. 新しく、社会に役立ち、根拠のある情報を創りだしてください。 3. 情報システムを利用して研究する能力を身につけてください。														
実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性				アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施									
×					○									
その他														
留意事項														
* 詳細は小宮山のホームページ ( <a href="http://www.nu.ac.jp/~komiyama/">http://www.nu.ac.jp/~komiyama/</a> ) で公開します。志望理由の書き方が記してありますので、小宮山研究室を希望する方は、必ず参照してください。														
* 2年生の春休みにサブゼミ（1日程度）を開きます。日程等は参加者の皆さんの都合に合わせます。														
* 2年次・3年次ともに先輩の卒業研究発表会には必ず出席してください。														
* ゼミにおいて無断欠席は認めません。全員に迷惑が及びます。可及的速やかに連絡してください。														
* 虚偽の申告をした方は、単位の取得はできません。														

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410038	X-32-B-3-410038			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1～3年次生】経営情報学部経営学科 【1～3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	× × × 専門 × × ×	× × × 必修 × × ×	× × × 3年 × × ×
授業科目	担当教員						
研究ゼミナール 1	佐々木 宏之	2	前期				
ゼミテーマ・タイトル							
心理学の調査・実験における一連の活動（研究計画、準備と実施、データ分析、結果発表）の実践的理解							
内容							
卒業研究の遂行のための基礎能力を養うため、3、4名のグループに分かれてテーマを設定し、以下の手順で調査、グループ発表を行う。							
①文献収集 各種データベースや書店HPから、テーマに関連する書籍・論文を収集する。							
②調査・実験計画 研究仮説を立て、その仮説の検証に必要な要因計画を行う。							
③実験・調査方法の習得と実施 質問紙の作成方法について学ぶ。 Power Pointなどを用いて必要な実験材料を作成する。							
④データ分析 プログラミング言語を用いて実験遂行用のプログラムを作成する。							
⑤データ分析 Excelを用いたデータ処理方法について学ぶ。 t検定、カイ二乗検定、分散分析、因子分析の方法を身につける。							
⑥研究発表 文献調査・実験で得られた結果をまとめて、Power Pointによるプレゼンをおこなう。 発表スライドは、タイトル・目的・仮説・方法・結果・考察から構成され、グループのメンバーで分担して発表をおこなう。発表や発表資料に対して、研究室のメンバー全員で議論する。 【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】 【新型肺炎対策の授業1回分短縮に応じて、レポートを提出します】							
使用予定テキスト							
特に教科書は指定せず、必要な資料は授業中に配布する。							
ゼミの進め方							
①調査テーマ「SD法によるイメージ測定」、②実験テーマ「ストループ効果」について、計画、実施、分析、考察、発表のグループワークを行う。							
成績評価基準							
【成績評価】実験・調査に対する取り組み(80%)、発表内容(10%)、卒論テーマの宿題(10%)							
ゼミ選択上のアドバイス							
次のような学生を求めます。 心理学の授業に興味をもった学生。 心理学のレポートを楽めた学生。 英語論文読解、統計学を忌避しない学生。							
実務経験のある 教員による授業 科目有無				実務経験と授業科目との関連性		アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施	
×						○	
その他							
ゼミ活動と並行して、卒業研究へ向けたテーマ選びを行います。 毎週の宿題として、報告してもらいます。							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンパリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年		
410038	X-32-B-3-410038	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×		
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×		
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×		
				【1~3年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	3年		
				【1~3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×		
研究ゼミナール1	佐々木 桐子			【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×		
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル									
シミュレーション									
内容									
身边にあるさまざまなシステムに興味を持ち、そこで起こる問題を発見し、モデル化し、改善する方法を習得します。具体的には、生産、物流、道路交通、病院、銀行業務などのシステムを調査・分析し、離散系シミュレーション言語を用いてシミュレーションモデルを構築し、シミュレーション実験をおこない、問題解決策を検討します。									
使用予定テキスト									
「講義ノート」を配布します。この「講義ノート」は、2年間使用しますので、無くさないようにしてください。									
ゼミの進め方									
離散系シミュレーション言語の習得。 ① ATMモデルの構築およびその発表。 ② レジモデルの構築およびその発表。 ③ 現実のシステムへの応用およびその発表。 【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】									
成績評価基準									
成果物（シミュレーションモデル）：50点、発表会：50点により評価します。 <発表会のフィードバックについて> 発表会の都度、講評をおこないます。									
ゼミ選択上のアドバイス									
いろんなゼミナールについて、調べて、お話を聞いて、過去の卒業論文を見た上で、自分がどこのゼミナールでどんな研究をしたいのかをじっくり考えてください。									
実務経験のある 教員による授業 科目有無		実務経験と授業科目との関連性				アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施			
×						○			
その他									

【授】：授業内容 【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年									
410038	X-32-B-3-410038	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×									
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×									
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×									
				【1~3年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	3年									
				【1~3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×									
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×									
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×									
ゼミテーマ・タイトル																
地域経営における大学生の力-持続可能な地域を目指して-																
内容																
本ゼミナールは、地域が持続的に発展するための具体的な方法論を考え実行することが求められる。 具体的には 1) 地域の現状調査 2) 現状を把握した上で改善提案 3) より現実的に、持続的に発展するための再考 をスパイラルアップのように何度も繰り返していく。 以上の活動の中で、地域における自身の役割を実感し、地域経営の本質を理解してほしい。																
使用予定テキスト																
特になし。																
ゼミの進め方																
基本的に教員が問題を提供し、その問題を学生間で解決する作業が何度もある。 しかし、回を追うごとに、自分で問題発見、解決する力を付けてもらう。																
成績評価基準																
成果物（50%）、貢献度（50%）																
ゼミ選択上のアドバイス																
可能であるならば、Instagramで@t.c.y.labを見てほしい。 他にも、研究室にこれまでの活動報告書があるので、必ずどちらかを見たうえで選択してほしい。																
実務経験のある 教員による授業 科目有無	実務経験と授業科目との関連性				アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施											
×																
その他																
積極的に行動することが求められる。 予習復習に4時間、研究すること。																

【授】：授業内容 【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410038	X-32-B-3-410038	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1~3年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	3年
				【1~3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
研究ゼミナール1	藤瀬 武彦			【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×

#### ゼミテーマ・タイトル

より良い社会をつくるために問題点を見つけて、それ解決するための調査・研究方法を考える。

#### 内容

- 1) ガイダンスと自己紹介
- 2) ビデオ観賞とフリーディスカッション
- 3) 共同研究のテーマ探し（過去のテーマの紹介とリサーチ）
- 4) 共同研究テーマの報告と選択（1~2題：班決め）
- 5) 研究内容の修正①
- 6) 研究内容の修正②
- 7) 被験者の確定と実験準備
- 8) 実験及びアンケート調査①
- 9) 実験及びアンケート調査②
- 10) 実験及びアンケート調査③
- 11) 実験及びアンケート調査④
- 12) 実験及びアンケート調査⑤
- 13) プрезентーション資料作成
- 14) プрезентーションのリハーサル
- 15) 研究発表会

【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】

#### 使用予定テキスト

必要に応じて資料をPowerPointまたはDVDやビデオなどで提示する。

#### ゼミの進め方

演習形式で行う。

#### 成績評価基準

授業中の課題や質疑応答などによる演習点60点（遅刻等による減点あり）及び課題点（レポート等）40点により評価する。

#### ゼミ選択上のアドバイス

社会の問題点（健康体力づくり、少子高齢化、医療・介護、ゲーム・スマホ依存、いじめ・虐待、道路交通法など）とその解決方法に興味のある学生を望む。

実務経験のある 教員による授業 科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		×

#### その他

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410038	X-32-B-3-410038	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			【3年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1～3年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	3年
				【1～3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
研究ゼミナール1	藤田 晴啓			【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×

#### ゼミテーマ・タイトル

地域イベント参加・グループワークを通じての自分さがし

#### 内容

スケジュールは以下のとおりです

2-3月（サブ研究ゼミ）：ホログラム、佐渡プロジェクト、メディア発信各担当グループに分かれ3年生からの引継ぎと研修を行います。

4月：グループディスカッションを中心とした「自分づくり」のシナリオ作成

5月：卒論のテーマ決定、卒業生・4年生とまたは佐渡でのバーベキュー交流大会

6月：オープンキャンパスコンテンツ作成および準備

7月：オープンキャンパスにてホログラムの実証試験

8月：夏季休暇

卒論はゼミ生が選択したテーマに沿って、教員とじっくり計画を立てます。

毎週少しずつ卒論を書き、教員が個別指導。4年になってあわてる必要なし。

卒論は3年次中に多くの部分が書き上がります。

研究ゼミでのグループワークは以下のとおり

被験者に異なる条件下での感じ方SD法等の心理テストを行い、

統計的に差異があるか(t検定)、ヒトの異なる社会行動に関連性があるか(χ2検定)を学ぶ。

機械学習・ディープラーニングによるビジネスイノベーション

大学生のメディア発信力による佐渡集落の活性化事業(2012年から毎年継続、9年目)

各回の予習・復習に4時間程度を要する

#### 使用予定テキスト

必要に応じて配布します

#### ゼミの進め方

毎回全員でのグループワークのあと、卒論個人指導を行います

#### 成績評価基準

卒論執筆提出分 5% × 15回 = 75%

研究ゼミ1は上記に各種活動への参加状況を加え25%にて評価

#### ゼミ選択上のアドバイス

自ら考え、行動することを心がけるようにしてください

実務経験のある 教員による授業 科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施
×		○

#### その他

研究ゼミ配属決定後に週1限程度のサブ研究ゼミを実施します。

また、3年生から研究室各種作業の引き継ぎを3年次に進級する前の春休みに実施します。

9月下旬に開催する佐渡合宿は全員参加となります。

2012年から毎年ゼミ生が参加する村祭りでの協力です。この準備に半年近く時間をかけます。

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410038	X-32-B-3-410038			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1～3年次生】経営情報学部経営学科 【1～3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	× × × 専門 × × ×	× × × 必修 × × ×	× × × 3年 × × ×
授業科目	担当教員	2	前期				
研究ゼミナール 1	藤田 美幸						

#### ゼミテーマ・タイトル

マーケティングの学問修得とコミュニケーション力・企画力の育成—フィールドワークを通して—

#### 内容

本ゼミナールでは、グループワークを通して、マーケティングの学問の修得およびコミュニケーション力、企画力を育成することを目的とします。目標を達成するため以下の内容を実施します。

1. 産官学連携プロジェクト。
2. 企業や組織の実データを分析し、新たな商品・サービスを企画。
3. 社会人の講話から企業研究。

4. 学外のビジネスプランコンテスト等に成果物を発表。

\* 産官学連携プロジェクトは学外者のスケジュールに合わせるため講義開催日が変更になる場合があります。

\* 先方あっての事ですので、内容は未定です。

\* この科目は、「健全な社会生活を営むための常識を持ち、他社と協力して問題解決にあたること」および「情報や情報システムの利活用方法を習得し、仕事や生活に活用できる」ための科目的ひとつになります。

また、毎回の予習・復習に合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。

#### 使用予定テキスト

特になし、必要に応じて資料を配布します。

#### ゼミの進め方

##### 【商品・サービス企画の場合】

###### <課題提示>

(1) 課題に関するデータ収集

・顧客志向を探るには、思い込みでなく実際に生じているデータを集め、提示します（エビデンス）。

二次データ、一次データを集めます。

また、企業の実データを用いることもあります。

(2) アイデアを発想し選択します。

(3) (2) で選択されたアイデアについて構成する要素の最適な組み合わせを探ります。

(4) 成果物として、発表会等でパワーポイントを使用したプレゼンテーションを行い、研究報告書を提出します。

(前期・後期ともに同じ内容ですが、取り組む課題が異なる場合があります。)

#### 成績評価基準

ゼミナールでの報告内容、レポート、出席状況、ゼミ活動に意欲的に取り組んでいるか等により総合的に評価します。

具体的には、(1) ゼミナールへの出席・授業態度 (60%)、(2) 報告内容とレポート (40%) に基づいて評価します。

単に出席しているだけでは (1) の 60%になりません。

また 3 分の 1 以上欠席した場合は、単位は出しません。風邪やアルバイトの場合でも欠席になります。

#### ゼミ選択上のアドバイス

受動的な学生は向いていません。

企画力、コミュニケーション力を養いたいと思っている学生を歓迎します。

実務経験のある 教員による授業 科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		○

#### その他

土曜や日曜に学外へフィールドワークや外部交流をすることもあります。

(先方あってのことなので未定です。)

企業の実データを活用する場合もあります。

研究ゼミナールを通じ、社会人への重大なパスポートとなる企業や組織では不可欠の「感動」を商品化する能力、すなわち（一人で）調査・分析・考察をし、企画力を身につけることを目標とします。

具体的には、以下の 3 つが学習到達目標です。

##### (1) コミュニケーション能力

・周囲（学外、異学年など）と共に創して課題に取り組むこと。それにより自分の考えを表現する力を身につけること。

##### (2) 実践的な能力

・共創により、さまざまな課題に取り組み、学内外で表現することで実践力を身につけること。

##### (3) 発想力・企画力・実行力

・課題解決の積み重ねにより、具体的なプランとして提起する力を身につけること。

【授】：授業内容 【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年		
410038	X-32-B-3-410038	2	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×		
授業科目				【3年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×		
				【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×		
				【1・3年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	3年		
				【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×		
研究ゼミナール1				【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×		
				【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		

#### ゼミテーマ・タイトル

管理会計と会計情報システムに関する研究 ~会計情報を活用して企業の命を救うことができます~

#### 内容

このゼミナールでは、管理会計と会計情報システムに関する研究を行います。

管理会計は「経営に役立つ会計」であり、企業の目標を達成するために会計情報を認識、測定、集計、分析、解釈する一連のプロセスです。それゆえ、財務会計が企業外部への報告を目的とするのに対して、管理会計では内部報告目的が重視されます。また、コンピュータの性能と通信技術が発展したことにより、経営情報システムと会計との結びつきが一層強くなっています。この授業を履修することによって、以下を修得することができます。

- ・原価や費用を削減して、企業がより多くの利益(儲け)を得る方法が身につきます。
- ・原価や費用の発生源によって、その管理の方法が異なることを理解できます。
- ・会計情報を用いて、企業の業績の良し悪しを測定できるようになります。
- ・会計情報システムの機能や役割を、より深く知ることができます。
- ・経営学だけではなく、技術やものづくりにも興味がわきます。

【関連するディプロマポリシー(学位授与方針)】自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること。

【アクティブラーニングの実施】発表と討議を実施します。

【予習復習】毎回180分相当の予習復習が必要です。

#### 使用予定テキスト

上埜進等(2010)『管理会計の基礎 第4版』税務経理協会, ISBN:9784419054595.

#### ゼミの進め方

「研究ゼミナール1, 2」では管理会計に関する本を輪読し、知識を深めていきます。

「研究ゼミナール3」では卒業論文のテーマを選択し、文献などの調査を行い、執筆を開始します。

「研究ゼミナール4」「卒業論文」では卒業論文の執筆を行い、その成果を卒業論文発表会で発表します。

また、工場見学やゼミ合宿も行う予定です。

#### 成績評価基準

「研究ゼミナール1, 2, 3」は、課題レポート50%、報告及び討論50%で評価します。

「研究ゼミナール4」は、課題レポート80%、報告及び討論20%で評価します。

「卒業論文」は、論文70%、発表会20%、データベース登録5%、執筆日誌5%で評価します。但し、4項目の全てを行った場合のみ、成績評価の対象とします。

#### ゼミ選択上のアドバイス

このゼミナールでは、世の中の様々な現象に深く関心を持っている学生を求めています。毎日の通学で見る町並みの移り変わりなどの、身近なことでもいいのです。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング(ディスカッション、グループワーク、発表等)の実施
○	上場企業で経理業務・会計情報システム構築などに従事した教員が、実務経験を基に会計・経営について指導します。	○

#### その他

##### 【卒業後の進路と就職先】

このゼミナールの学びはものづくりと関連が深いため、製造業への就職を推奨しています。

また、会計の知識を直接活かすことができる会計事務所や会計ソフトウェア会社への就職も推奨しています。公認会計士や税理士になる道もあります。

上記以外では、小売業、次いで情報産業への就職実績が多いです。

金融業(銀行、保険、投資等)、総合商社、マスコミなどはあまり推奨していません。また、就職実績も極めて少ないです。

上場企業への就職実績もあります。

【授】: 授業内容【前・後】: 事前・事後学習